



大堀小学校

双葉郡浪江町大字小野田字仲禅寺 134



大堀相馬焼の伝統を生かす 地域ならではの教育

大堀小学校は、1873（明治6）年に小野田小学校として創設され、1893（明治26）年に大堀尋常小学校と改称されました。1993（平成5）年に新築された校舎は昇降口に吹き抜けのホールや広い多目的スペースがありました。大堀地区は伝統的工芸品「大堀相馬焼」の産地であり、校舎の至るところには大堀相馬焼の特長が生かされ、特に図工室には陶芸にかかわる多くの道具があった他、校舎の外には立派な焼き窯が設置されていました。地区の特色を生かす教育が、地域の皆さんの協力を得ながら行われていた小学校でした。

校歌

作詞／齋藤 一夫 作曲／冨沢 功

1. むかしから そのむかしから 学校の
やねも お空も つんぬいて
大きくのびた かきの木は
みんなの そだつ 目じるしだ
2. 遠い道 夕やけ雲の お山から
海までつづく たかせ川
あゆも かじかも かにさんも
みんな なかよい おともだち
3. おじいさん おとうさんも かあさんも
べんきょうしたのは この学校
わたしも あなたも あとついで
みんなで ぐんぐん のびるのだ

沿革

明治 6年 7月	標葉郡小野田村清水寺内に小野田小学校創設	昭和51年 12月	プール・体育館建設
7年	標葉郡谷津田に分教場設置	55年 5月	柿の木移植
14年 8月	小野田小学校新築、谷津田小学校を合併	61年 2月	記念植樹並びに晩翠の碑周辺整備 (山下泰裕先生並びに田中慶秋先生寄贈)
26年 7月	大堀尋常小学校と改称	62年 3月	三程分校閉校
35年 4月	三程分教場設置	平成 2年 8月	県P白河大会で優良PTA表彰
44年 4月	小野田字仲禅寺地内に改築移転 大堀村全児童を収容し、本校7学級、分教場1学級を編成する	4年 3月	校舎改築事業外構整備
大正 4年 11月	三程分教場新築（南申瘤2）	5年 11月	新校舎落成（鉄筋2階建て）
15年 4月	大堀尋常小学校三程分教場と改称	10年 12月	校庭整備
昭和 16年 4月	大堀村国民学校と改称	15年 8月	校庭芝生化
22年 4月	大堀村立大堀小学校と改称	16年 10月	郵政公社優良子ども郵便局表彰（総務大臣特別賞）
30年 4月	浪江町立大堀小学校と改称	19年 1月	相撲土俵寄贈
33年 9月	学校給食実施	21年 3月	新校旗購入
35年 2月	校歌制定（作詞／齋藤一夫 作曲／冨沢 功）	23年 3月	東日本大震災および原発事故のため臨時休業
36年 3月	保健体育研究優良校として県表彰受賞	23年 4月	重要書類、PC等持ち出し
40年 3月	新校舎改築第1期工事落成	23年 7月	卒業証書授与式実施（福島県男女共生センター）
41年 12月	新校舎改築第2期工事落成	25年 5月 ～7月	私物引き渡し
43年 11月	文部省都道府県教育長後援学研教育賞受賞	25年 9月	宅配便による返却実施
44年 3月	訓えの碑除幕	29年 11月	校舎内整理実施
46年 11月	LPG焼窯設置	30年 11月	大堀除草の実施
48年 4月	三程分校5・6年本校に合併	31年 3月	休校
48年 12月	創立百周年記念祝典	令和 2年 7月	大堀小学校見学会を開催
		3年 3月	閉校

「ふるさと追想」

浪江のこころ通信

令和2年広報なみえ
10月号より抜粋



世界に目を向けながら、地方で活躍できる人になりたい

小野田 恵佳さん（大学3年）

震災の時は小学5年生でした。当日は車中泊。県内外の各地を転々として、今の二本松市の家に落ち着きました。ずっと生活するだけで精一杯でしたが、二本松市立東和中学校で学級委員に立候補したことがきっかけで変わりました。高校では生徒会役員や部活動の部長を経験し、人としてリーダーとして徐々に自信を持つことができました。高校1年生の頃までは、JICA（国際協力機構）のように、世界で誰かを救える人になりたいと考えていました。大学生になると、世界で起こっている出来事に目を向けながら、福島や浪江町で活躍したいと思うようになりました。浪江町の道の駅に家族と行って見たのですが、温かみを感じて、地方で活躍したいという思いを強くしました。

震災前の学校の風景



鼓笛パレード



遠足風景



旧校舎



震災前の校舎



運動会・大堀の旗



学習発表会



農業体験

震災直後の記録とその後

校内放送により一次避難（机の下）し、次に非常階段から校庭に避難しました。子どもたちは私語もなく指示に従って避難。防寒着も持たず上履きのまま避難した児童も多かったので、揺れが収まるのを待って、取りに行きました。怖がって泣く子には、担任や友達が寄り添い、励まし合いました。毛布、ブルーシート、運動用マットなどを運び出し、寒さ対策をとりながら、児童の家族に迎えに来るように連絡。無事に引き渡しました。

その後、原発事故に伴い、子どもたちは県内外に避難。県内各地で「震災後交流会」などが催され、子どもたちは旧交を温め、会話が弾むひとときを過ごしました。

校舎は体育館の一部が壊れたものの、教室等はきれいに片付けました。校舎周辺は表土の除染が行われ、いったんはきれいになったものの、使われることのない校舎周辺は野生動物に荒らされてしまう状況となりました。



ホールにある陶板画



震災後交流会（猪苗代町）



校舎内（震災後）



会話が弾んだ震災後交流会